

## 東芝メモリ岩手新製造棟の起工式を実施

東芝メモリ(株)岩手新製造棟(K1棟)の起工式は7月24日、北部勤労者屋内運動場で行われました。

同社は7月10日から建設予定地での工事を開始。スマートフォンやパソコンなどの電子機器やデータセンターに使われる記憶媒体NAND型フラッシュメモリを製造しています。建設中の製造棟は、鉄骨5階建て、建屋面積は約40000㎡を予定。最先端品の3次元フラッシュメモリを量産する計画です。

式典で成毛康雄代表取締役



現在建設中の新製造棟(K1棟)の完成イメージ(東芝メモリ(株)提供)

## 2社と企業立地協定を締結

市は、7月26日に東京エレクトロンF E(株)と、30日に東京製綱インターナショナル(株)と企業立地に関する協定を締結しました。

東京エレクトロンF E(株)は半導体製造装置に係る立ち上げやメンテナンスを行っていただきます。東芝メモリ(株)の新製造棟建設などに対応するため、東北圏内の業務拠点をツインモールプラザ東館4階へ設置します。投資額は約2.3億円。9月から同プラザの商業スペースを改装し、31年1月に事業を開始する予定です。



調印する東京エレクトロンF E(株)の赤池昌二代代表取締役社長(右)ら

東京製綱インターナショナル(株)は電線やコンクリート補強材などに使われる炭素繊維複合材ケーブル(CFC)を

を製造。CFCは炭素素材のため、従来の鋼材よりも軽量で錆びず、電線素材としては送電容量が従来の約2倍になる点などが評価されています。今後の市場本格化を見据え、北上工業団地内に拠点を整備。投資額は約15億円。7月から操業を始めています。



協定を交わす東京製綱インターナショナル(株)の佐藤和規代表取締役社長(右2人目)ら

## 地域おこし協力隊小澤さんに委嘱状を交付

地域おこし協力隊に就任した小澤政行さん(46歳・岩手町出身)への委嘱状交付式は2日、本庁舎で行われました。市は28年度から総務省の「地域おこし協力隊」制度を活用し、地域活性化を図っており、小澤さんは8人目の隊員となります。小澤さんが携

わる事業は「ローカルカンパニー魅力発信プロジェクト」。北上オフィスプラザを拠点に、製造業やサービスの業まで幅広く地元事業者の魅力を掘り起こし、発信します。

小澤さんは県内の高校を卒業後、東京都内の広告制作会社や通信販売会社での企画制作などを経て、フリーランスのコピーライターとして活躍してきました。ゆくゆくは地元で働きたいと考えていたところ、本プロジェクトを目にし応募。委嘱に至りました。「事業者の技術だけでなく、働く人にも焦点を当て、見える化したい。経験と能力を発揮して、世界に地元事業者の魅力を発信したい」と意欲を語りました。



高橋市長から委嘱状を受け取り、決意を新たにする小澤さん(左)

## 災害時のドローンによる情報収集などに関する協定を締結

市は7月25日、花北興産(有)と、災害時における無人航空機(ドローン)による情報収集等に関する協定書の調印式を本庁舎で行いました。

これまでは目視による状況確認に頼っていましたが、協定により今後は、ドローンに搭載したカメラによって、人が近付けない場所や山林火災の確認、行方不明者の捜索が可能になります。災害時のドローン活用は、県内では盛岡

市などに続いて5番目となります。

同社は「花北モーターズクール」として自動車教習所などを運営し、昨年ドローン操縦の講習や機体販売を始めました。佐藤博文代表取締役は「ドローンの可能性は大きい。災害時など地域貢献していく」とあいさつしました。

市は9月2日(日)に黒沢尻東小学校で総合防災訓練を実施予定。9時からの参加体験

## 消防団協力事業所表示証を新たに交付

市は、複数の従業員が消防団員として入団している事業所や、災害時に消防団に資機材を提供している事業所などに対し、北上市消防団協力事業所表示証を交付しています。今回、7月11日付けで認定した次の事業所に同表示証を交付しました。

- 社会福祉法人和江会わがの里(下江釣子)
- 株式会社ジャパンセミコン



社会福祉法人和江会わがの里の千田信男理事長(左)

### ダクター(北工業団地)

これまでに交付を受けた協



災害協定書を交わした花北興産(有)の佐藤代表取締役(右から2人目)

型訓練にドローンを展示するほか、放水消火訓練などを行います。

力事業所は30社。認定の有効期間は、認定の日から2年間となります。

▼申し込み・問い合わせ：消防防災課 ☎72-8305



株式会社ジャパンセミコンダクターの高梨寛之取締役総務部長(右)

## 二つの「R」

家庭、学校、地域、会社、私たちは日常的にさまざまな組織に所属している。その組織を動かしているのは何か、考えてみたことがあるだろうか。

若い頃、ある組織マネジメント研修で学んだのが表題の二つの「R」である。二つの「R」とは「Rule(ルール)」「Role(役割)」と「Role(ルール)」「Role(役割)」である。

「Rule」とは、組織がその目的を達成するために定められた法則であり、国であれば憲法をはじめとする法律、法人であれば会則や規約である。「Role」とは、その組織を動かす人の役割や権限であり、

国では大統領や首相、官僚、法人では代表や理事など多様な役割や権限が存在する。組織の業績や事故、事件などは

おおむねこの二つの「R」に欠陥があると考えることで改善が可能になる。

現在、北上市が進めている行政マネジメントシステムの「R」に存在する欠陥を探し出し、改善することであり、始動させて今年で4年目となる。もし不適切な事務や施策の効果に疑問がある場合は、内部監査を実施し、是正処置を計画し実施することとなるため、同様のミスや不振が発生しにくくなるのである。したがって個々に抱える事務量も減り、賢く働くスマートワークに対しても効果があることは言うまでもない。

組織の問題を評価する際に「気が緩んでいる!」とか「気を引き締めて!」などと言う人がいるが、それは個人の能力への過度の依存であり、そんな事で組織としての改善は期待できない。まして犯人探しや個人への責任のなすりつけなどは無意味であり、時間の無駄でしかない。問題の発生には必ず二つの「R」に欠陥があることを肝に銘じ、継続的な改善に結びつきたいものである。

